岡山県立博物館だより

36号
3月31日
1991

新収蔵資料紹介

正阿弥勝義金工品
蜻蛉古瓦香炉

寸法：縦11.5
横12.4
高さ8.0cm

わが館は郷土の生んだ，日本を代表する明治の金工家正阿弥勝義の作品を，県民に顕彰すべく10数年来継続して収集している。テーマ展，常設展に度々展示し，県下ではかなり知られるようになってきた。幸いなことに，昨年各地で行われた大英博物館所蔵日本展にも出品されるなど，今や国際的にも注目されるようになってきた。

この度購入した古瓦香炉は勝義が京都に移ってからのもの明治30年代の作品で，いわば佳境の作でもある。

少し瓦当文の意匠だけ変え，他は同じ作品が明治31年に作られているので，これはその近辺の作品と思われる。それは勝義はほぼ同じ作品を2，3点続けて作ることが多いからである。

勝義の作品は大きく分けると，幾つもの合金や色上げによる変わり金を用いて，どこまでも人間業の限界に挑んで真に迫る精致な色絵金工と，鮮やかさを抑え，鉄錆地を生かしたわび・さびの世界を粋に表現したものとに分かれる。後者は概ね明治31年以降の晩年に製作されている。

この作品は単なる超リアリズム的な色絵金工ではなく，鉄錆地を巧みに利用した，わび・さびも併せ表現しようとした時期の優品である。

蜻蛉は素銅を中心にした色絵金工，まるで蜻蛉の羽根は金属でありながら，透けたような感じを出し，足の関節はもちろん，鈎爪まで表現して，それでしっかりと瓦に固定している。目は宝石を使っている。

瓦は鍛鉄で，決して鋳物ではない。厚さ3ミリほどの鉄を凹凸をつけて荒し，全体の瓦の厚みの中をすべて空洞にしている。もちろん炉の部分はさらに別の銀製の容器を入れるようにくり抜いてある。炉の蓋も二重になっており，外側は鉄錆地，見えない内側は純銀製の繊細な唐草透かしとなっている。このように見えないところへ力量を注ぎ込むのは江戸時代の町人文化の1つの特質であり，「粋」と呼ばれるものである。勝義は金の煙管に鉄を巻いてその上から，すうーと草花を彫って，これこそ金の使い方の奥義であると言ったりした。

この香炉を手に持った人が，蜻蛉の出来に感心し，ほめながら蓋を開けて，そこでもっと驚くことになる。ほめがまだ足りなかったことに，恥じることになるかも知れない。この二段構えの仕組みこそ，昇華され，意表をついた行き着くところの作意的「粋」といえるものである。彼の作品はほとんどがパトロンによって買い上げられている。パトロンとの深い信頼関係が続いていないとこのような深い味は出来るものではない。世間に対する両者共同の陰謀であり，脈の通った文化的創造であるような気がする。

平成二年度事業報告

開館二十周年記念　特別展

邪馬台国へのみち

平成3. 2. 9～3. 10

邪馬台国について所在論を中心として論争が展開され始めてからすでにひさしい。しかし，邪馬台国をめぐる諸問題が日本の歴史を解明する上で重要な課題であることは，研究調査の進展した今も変わりない。

この特別展では，特に九州説，畿内説などの特定の説の主張をもって展示したものではない。それぞれの説が，九州説，畿内説共に，論争の過程で利用している考古学的な資料を展示して，鑑賞者自らの判断に委ねたものである。このことは現在も続けられている研究調査に対して敬意を表するものであると共に，邪馬台国にかかわる一般の関心が，謎に包まれた国として古代への夢を育むものとして親しまれているからである。

展示構成では，一室を邪馬台国時代の吉備の動向を示す展示にあて，特殊器台を中心とした資料の展示を行った。それは所在地がどこであっても，邪馬台国問題が吉備地方にとって無関係な問題ではないことを明らかにするためである。

なお，会期中の２月16日（土）には日本考古学協会会長・明治大学教授大塚初重氏による「考古学からみた邪馬台国」と題する講演会を開催し，多くの聴衆を集めた。

主な出品物

◎重要文化財　○県指定重要文化財

資料名	数量	出土地
袈裟襷文銅鐸	1	岡山県勝央町植月
袈裟襷文銅鐸	1	岡山市安仁神社境内
袈裟襷文銅鐸	1	岡山市雄町遺跡
流水文銅鐸	1	岡山市高塚遺跡
六区画袈裟襷文銅鐸	1	岡山市兼基
絵図遺跡出土土器	一括	岡山市絵図遺跡
貨泉	9	岡山市高塚遺跡
◎銅剣	10	島根県斐川町荒神谷遺跡
平形銅剣	1	倉敷市由加
変形細身銅剣	1	〃
卜骨	4	岡山市加茂遺跡
金印（レプリカ）	1	福岡市志賀島
細形銅剣	1	佐賀市鍋島本村
銅戈	1	伝福岡県築上郡内
◎銅矛	3	佐賀県北茂安町検見谷遺跡
○銅釦	3	佐賀県小城町布施ヶ里遺跡
◎銅戈鋳型	1	福岡県原山町三雲遺跡
吉野ヶ里遺跡出土品(レプリカ)	一括	佐賀県神埼・三田川町
祭祀土器	4	佐賀県神埼町利田柳遺跡
◎台付舟形土器	1	熊本県城南町宮地
重弧文土器	2	熊本県阿蘇町下山西遺跡
重弧文土器	3	熊本県嘉島町二子塚遺跡
器台	1	佐賀県中原町原古賀三本谷遺跡
土器	7	佐賀県諸富町村中角遺跡
中期甕棺	1	福岡市吉武遺跡
後期甕棺	1	福岡市吉武遺跡
送葬用土器	一括	赤穂市有年原・田中遺跡
中山遺跡出土特殊器台他	一括	岡山県落合町中山遺跡
特殊壺	1	井原市木之子
○特殊器台	1	広島県御調町貝ヶ原
特殊器台	1	総社市三輪宮山遺跡
特殊器台，特殊壺破片	一括	倉敷市向木見
特殊器台，特殊壺	2	三次市松ヶ迫遺跡
特殊器台	1	総社市三輪柳坪
特殊器台破片	一括	岡山県哲西町西江遺跡
特殊器台	1	橿原市葛本町弁天塚
特殊器台	1	倉敷市矢部
三角縁神獣鏡	1	岡山県内（不明）
◎景初三年銘三角縁神獣鏡	1	島根県加茂町神原神社古墳
天王日月・獣文帯同向式神獣鏡	1	京都府山城町椿井大塚山古墳
天王・日月・獣文帯四神四獣鏡	1	〃
天王日月・獣文帯四神四獣鏡	1	〃
天王日月・獣文帯四神四獣鏡	1	〃
吾作三神五獣鏡	1	〃
波文帯盤龍鏡	1	〃
陳是作四神二獣鏡	1	〃
張氏作三神五獣鏡	1	〃
吾作徐州銘四神四獣鏡	1	〃
櫛歯文帯四神四獣鏡	1	〃
画文帯五神四獣鏡	1	〃
天王日月・獣文帯四神四獣鏡	1	〃
◎景初四年銘盤龍鏡	1	福知山市広峯15号墳
三角縁神獣鏡	2	岡山市湯迫車塚古墳
◎家形飾鐶頭大刀	1	天理市東大寺山古墳
◎鍬形石	6	〃
◎車輪石	10	〃
三角縁三仏三獣鏡	1	岡山市天神山２号墳
鶴山丸山古墳出土遺物	一括	備前市畠田
鶴山丸山古墳出土鏡	4	備前市畠田

特別展記念講演会より

企画展

岡山県指定重要文化財Ⅱ

10. 18～11. 18

平成元年度の第1回展にひき続き，第2回展を開催した。

展示物は，考古・絵画・彫刻・工芸・文書・民俗・刀剣・陶磁の各分野にわたった。岡山県指定重要文化財のなかから，傷みの状態や，重量，サイズなど諸事情を考慮して公開が可能なもの32件を展示した。

ご承知のように，本県は古くから吉備の国として栄え，以来連綿として高い文化を展開してきており，県下各地に優れた文化財が数多くのこされている。これらの文化財はそれ自身が高い価値を持つことはもちろんだが，岡山にゆかりのあるもの，岡山の人々の暮しと深く関わってきたものなどが多くあり，親しみの持てる文化財も少なくない。

例えば，一階展示場には近年まで児島湾で行われたかしき網漁の漁具（本館蔵・87点一式）を展示した。大がかりなかしき網の展示は実物ならではの迫力があり，様々な漁具と併せて，往時の児島湾の風景を思い起こされた方も多かったことと思う。

また，今回は総社市国分寺の地蔵菩薩立像・作東町角南の大日如来坐像・美甘村竹元寺の銅造聖観音立像・倉敷市遍照院の聖観音立像など，優れた作ゆきの仏像が初公開された。これらは文化財として貴重なものであることは勿論だが，それ以上に宗教的な意味において，今日なお人々の崇敬を受け続けており，一堂にそろったこのような「ほとけさま」にお会いできる機会は今後なかなか得られるものではないだろう。

ほかに，文書の分野からは足利尊氏の御教書２通が展示された。これは観応元年（1350）尊氏の子で弟直義の養子となっていた足利直冬が備後の鞆に拠って尊氏に反した事件（観応の擾乱）に関する一連の御教書である。将軍尊氏が如何なる動きを起こしたかを示す興味深い記録である。

時候に恵まれたこともあってか7000人に近い熱心な入館者を迎えることができた。今回の展示資料はいずれも岡山を語る上に貴重なもので，充実した内容であったと思う。このような優れた資料を展示公開する機会を今後ともつくり，ひろく岡山県の歴史と文化の理解に寄与していきたいものである。

なお，今展覧会は出陳を御承諾下さった所蔵者・管理者の皆様の深いご理解なしには実現しえなかった企画である。記して謝意を表したい。

銅造　聖観音立像（部分）竹元寺

主な展示資料

月の輪古墳出土遺物	一括	栃原町教育委員会
木造　聖観音立像	1軀	倉敷市　遍照院
銅造　聖観音立像	1軀	美甘村　竹元寺
木造　大日如来坐像	1軀	作東町角南岡津地区
木造　阿弥陀如来立像	1軀	久米南町　誕生寺
木造　地蔵菩薩立像	1軀	総社市　国分寺
銅板法華経	1枚	御津町　妙覚寺
唐櫃	1合	個人
絹本著色　十三仏図	1幅	本館
絹本著色　開山別峰国師項相	1幅	岡山市　松林寺
紙本著色　菊慈童図屏風	1隻	倉敷市　蓮台寺
若宮八幡宮欧風画絵馬	1面	邑久町　若宮八幡宮
高麗版一切経	994冊	岡山市　吉備津神社
笠賀熊野比丘尼関係資料	一括	個人
かしき網漁漁具一式	一括	本館
太刀銘備前国長船住左近将監長光	1口	個人
備前焼　永正銘花瓶	1個	邑久町　静円寺

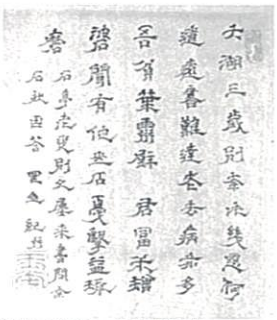
木造　狛犬（阿形）　吉備津神社

テーマ展

浦上玉堂とその周辺

7. 25～8. 26

浦上玉堂（1745－1820）は，岡山が生んだ最も著名な文人画家である。姓は紀，名は孝弼，字は君輔，通称は兵右衛門，号は穆斎のち玉堂琴士と称した。岡山藩の支藩備中鴨方藩士の家に生まれ，岡山城下三番町に居を構えた。若くから藩主のそばに仕えて重用されるが，武芸よりむしろ七弦琴や詩をよく嗜んだようである。そして50歳のとき，春琴・秋琴の二子を連れて脱藩し，諸国遍歴ののち京都を中心に自適の生活を送った。画業は30歳を過ぎてから本格的に始めたと思われ，それも画譜・画論類から学び，赴くままに筆を走らせたらしく，師承関係は辿れない。しかし，画人・学者・文人との交遊関係は広く，谷文晁や同郷の淵上旭江をはじめとする画友や，鴨方の儒者西山拙斎・岡山の斎藤一興といった学者，岡山の豪商河本一阿・讃岐の梶原藍渠・近江の木内石亭ほか各地の文人との目立った交際が認められ，そういった人間関係の中で，玉堂自身の隠逸の情やその画風も次第に形作られたと思われる。



浦上玉堂筆　五言律詩
木内石亭宛

この展覧会では，浦上玉堂の作品はもちろん，鴨方藩士時代の貴重な資料を展示し公開し，玉堂の知られてない一面をも紹介できたことは非常に意義深いものであった。

主な展示資料

紙本墨画淡彩　南村訪雪図　1幅　本館
紙本墨画淡彩　山澗読易図　1幅　岡山県立美術館
玉堂製作　七弦琴　1張　正宗文庫
玉堂筆写「論語・孟子・中庸」　9冊　本館
池田家文庫　鴨方藩文書のうち
　親事大要・給知所分帳ほか　岡山大学附属図書館
池田家履歴略記（写本）　1冊　〃
河本一阿画像　1幅　岡山市立中央図書館
九畹斎韻譜　斎藤一興著　岡山県総合文化センター
玉堂筆五言律詩　木内石亭宛　1幅　本館
武元登々庵画像　1幀　吉永町中央公民館

テーマ展

岡山の農村芸能

平成3．1．5～2．3

岡山県下には多くの伝統芸能が伝承されている。なかでも各種の農村芸能は，地域の寺社の祭礼と結びついて展開されたもので，民衆の信仰生活と密着したものであった。

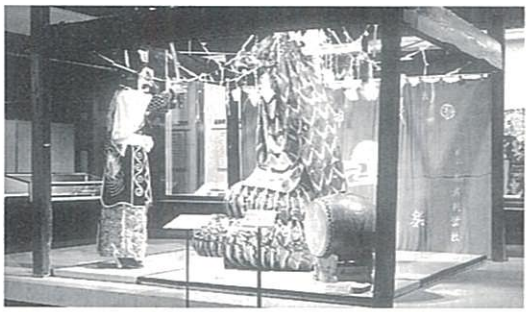
今回の展覧会では，備中荒神神楽（国指定重要無形民俗文化財）・横仙歌舞伎（県指定重要無形民俗文化財）・薪森原人形浄瑠璃・備前面浄瑠璃芝居（県指定重要無形民俗文化財）に焦点を当てて，各種の芸能に使用された衣装・面・人形・小道具類，その他の歴史資料で展示構成した。

汗が浸透し汚れた素朴な面や手作りの衣装の一針一針には，多忙な農作業の合間に芸能に打ち込んだ民衆のエネルギーが感じ取られた。

現在各地の地域振興策（村おこし運動）の一環として，伝統的な農村芸能が見直されつつあるが，一方，特に県中・北部地域での急激な過疎化が進展する中で，これらの芸能を保存・伝承することさえも困難となっているのも現状である。この展覧会が，歴史ある郷土の芸能を再確認する機会にでもなればと考えるものである。

主な展示資料

備中荒神神楽面　23面　江戸後期～大正時代　個人
神楽衣装　一式　明治～大正時代　美星町役場
西林国橋国学資料　3冊　江戸時代後期　個人
荒神神楽帳　13冊　〃　個人
津山町奉行日記　1冊　〃　津山郷土博物館
横仙歌舞伎衣装　一式　昭和時代　奈義町教育委員会
（三番叟・義経千本桜関係）
薪森原人形浄瑠璃関係資料　一式　明治時代　個人
（人形・幕・衣装箱ほか）
面浄瑠璃芝居関係資料　一式　昭和時代　個人



備中荒神神楽展示風景

名兜百頭展

－変遷とその意匠－

4．26～5．27

岡山県立博物館開館20周年・テレビせとうち開局5周年記念で「名兜百頭展」－変遷とその意匠－を平成2年4月26日(木)～5月27日(日)まで開催。入館者数10,618人。

日本の歴史の表舞台に武士が登場する平安末期から，日本の甲冑は素晴らしい発展を見る。当時の工芸技術の粋を集めながら，またその時代の戦闘様式，武士のものの考え方，あるいは新しく西欧との文化的交渉を映しながら日本独特の甲冑文化を形成してきた。鎧に比べ，とりわけ兜は変異性が大きかったために色々なものが作られた。

各時代の流れを知るために，時代ごとの兜を100頭集めて，武士の時代の意匠を通して，その時代を知ろうとするねらいが1つと，第2点には武士の登場と共に現れた，いわば大鎧出現時の豪壮な厳星兜を多くそろえた展示にしたかった。第3点に阿古陀形筋兜の系譜に重点をおいた。第4に雑賀の系譜を古墳時代の兜とからませながら数多く集めた。第5に変わり兜で西洋との接触を通した日本の文化の揺れ動くさまを取り上げ，5つの狙いと全体で甲冑文化を通した日本の歴史と文化を考えてもらった。

古墳時代のもの2頭，平安時代～鎌倉時代のもの5頭，南北朝時代のもの4頭，室町時代のもの28頭，桃山時代のもの19頭，江戸時代のもの47頭。中でも厳星兜7頭，在銘兜36頭も集めた。変わり兜24頭の中には新発見の天辺の穴シャッターからくりや，貴重な古い金唐革ものも登場し，当時の意外な技術的側面も見られた。

主な展示資料

資料名	時代
衝角付兜	古墳時代中期
眉庇付兜	古墳時代後期
（重文）赤韋威厳星兜	平安～鎌倉時代
鉄錆地二十八間四方白星兜鉢	鎌倉時代
二十四間四方白星兜鉢	鎌倉～室町時代
（重文）色々威筋兜	南北朝時代
鉄錆地二十八間星兜鉢	〃
二十四間星兜鉢	鎌倉～南北朝時代
黒漆塗五十間星兜鉢	南北朝時代
三十間六方白星兜鉢	南北朝～江戸時代
黒漆塗二十二間総覆輪筋兜鉢	室町時代
黒漆塗二十二間二方白総覆輪筋兜鉢	〃
黒漆塗三十間阿古陀形総覆輪筋兜	〃
鉄錆地十六間総覆輪筋兜鉢	〃
鉄錆地三十八間筋兜鉢	〃
黒漆塗六十二間筋兜	〃
鉄錆地六十二間筋兜	室町時代
鉄錆朱漆塗小星頭巾形兜（変り兜）	〃
黒漆塗鯱尾形兜（変り兜）	室町～江戸時代
鉄錆地六十二間筋兜	室町時代
鉄錆地三十二間阿古陀形兜鉢	〃
鉄錆地七枚張雑賀兜	室町～桃山時代
鉄錆地頭形兜	室町時代
鉄錆朱漆塗六十二間小星兜	〃
鉄錆地桃形兜鉢	室町～桃山時代
鉄錆地六十二間小星兜	室町時代
鉄錆地六十二間小星兜	〃
	ほか全部で100点

博物館講座

恒例となった『博物館講座』を，下記の内容で実施した。本講座は「岡山県の歴史と文化」をテーマに，外部の専門家や本館学芸員を講師とし，館蔵の実物資料を活用しながら郷土の文化遺産を理解しようとする講座である。本年度は外部講師の方々に，岡山の葬送儀礼を中心とした民俗，文書からみた岡山藩支藩の備中鴨方藩の支配の様相，岡山市の高塚遺跡発掘の経過報告について御講義いただき，時代・内容ともにバラエティ豊かなものとなった。受講生は69名で，学習内容と日程は以下のとおりであった。

テーマ	講師		開催日
魏志倭人伝	副館長	高橋　護	6月1日(金)
製鉄と鋳物	主査	田村　啓介	〃
浦上玉堂とその周辺	学芸員	守安　収	6月8日(金)
岡山の民俗	岡山民俗学会理事長	佐藤　米司	〃
岡山の仏画	学芸員	中田利枝子	6月15日(金)
岡山藩支藩としての鴨方藩について	岡山県総合文化センター整理課課長補佐	別府　信吾	〃
岡山の紙	学芸員	竹林　栄一	6月22日(金)
高塚遺跡の調査	古代吉備文化財センター文化財保護主査	岡本　寛久	〃
岡山県指定重要文化財	主事	八田　眞	6月29日(金)
岡山の風土と文化	学芸員	臼井　洋輔	〃

平成二年度　博物館講座より

平成２年度購入資料

○楯築遺跡出土石造遺物〔複製〕	１点	弥生時代後期
○双竜環頭太刀〔複製〕	１口	古墳時代後期
○平賀元義作　和歌懐紙	１幅	江戸時代後期
○正阿弥勝義作　古瓦香炉	１点	明治時代
○脇差　盛光　拵付き	１口	室町時代初期
○丹波　反口自然釉壺	１点	鎌倉時代
○越前　自然釉壺	１点	鎌倉末～南北朝時代

平成２年度寄贈資料

○窪田家資料	一括	埼玉県与野市	窪田　弘
○窪八幡宮資料	一括	姫路市	和田　裕充
○琴・制札	２点	岡山市	木村喜與子

（敬称略）

以上，貴重な資料の寄贈を受けました。永く大切に保管するとともに，本館の展示・研究資料として有効に活用させていただきます。ここに御寄贈くださいました方々のご芳名を記入し，厚くお礼申し上げます。

平成３年度事業のお知らせ

○特別展「恐怖と救済」（仮称）

平成３年10月～11月

宗教は，現代においてもなお，人びとを初詣や墓参りに促し，現代人の生活に今もなお息づき，あるときは時代をリードし，あるときは時代の要請に応えながら変容しつづけてきた。

「死」を穢れととられ，忌み避けた古代人の宗教観を大きく転換させる契機となったのは仏教であった。「死」をめぐっての因果応報の観念は，恵心僧都源信の著した『往生要集』によって，より鮮明に，より厳しいものとして人びとの間に浸透した。

この展覧会では，全ての人びとに平等に訪れる「死」をめぐっての恐怖とそれを救済せんとした仏教のあり方を起点に，日本人の精神文化を形成してきた信仰の諸相を，各種の文化財をとおしてみていく。

○テーマ展「歴史のなかの動物たち」

平成３年７月～８月

人類の発生以来，人と動物は共存共栄してきた。

人間の動物に対する様々な思いは，いろいろなものに具象化されて今日に伝わっている。土器や埴輪に表現された身近な動物，絵画や彫刻として図像化されて渡来したまだ見ぬ動物，恐れや信仰の対象として生まれた想像上の動物などがそれで，人々の手によって様々に表現されている。

この展覧会では，県内に残る考古資料・歴史資料・美術資料の中から動物を表現した資料を一堂に集め，人間と動物の関わりを考える。

○テーマ展「矢上山宝島寺」

平成４年１月～２月

矢上山宝島寺は，倉敷市連島町にある真言宗御室派の寺院で，貞観元年（859）の創建と伝えられる。天正年間に戦火で全山を焼失したと伝えられるが，最近，平安時代の作と推定される天部立像が発見されたほか李朝の仏画等を伝えており，古くから高梁川河口の海上交通の要衝に立地した一大寺院と思われる。歴代住職の中には，悉曇学の研究者として知られる寂厳がおり，その関係資料も多い。

この展覧会では，宝島寺に伝来する各種の文化財を一堂に展示し，その歴史の一端を紹介する。

○企画展「よみがえる歴史資料」

平成４年２月～３月

文化財は，先人の残してくれた貴重な声なき遺言であり，その時代の色々な情報を提供してくれる。一般に歴史的価値，美術的価値から国宝・重要文化財・県指定重要文化財にランクされている。

しかし，価値の多様化が進む今日，未発掘の資料や新しい観点から見直すとき，指定重要文化財に劣らないようなものがあり，これらを「知られざる名作」として展観する。

○博物館講座「岡山県の歴史と文化」

平成３年５．31～６．28

各金曜日の５日間

岡山県立博物館だより　No.36
発行日　平成３年３月31日
発行者　岡山県立博物館
館長　橋本泰夫
岡山市後楽園1-5
☎(岡山)72-1149